

練成会グループの歩みと塾の針路

講師 奥山英明氏 練成会グループ代表取締役会長

地域に根ざし、歩み続けた40年

本題に入る前に、塾を始めるきっかけについてお話ししたいと思います。私が小学校6年のとき、祖父が「英明、人のために尽くしなさい」と言って亡くなりました。その意味を子どもなりに一生懸命考え、「政治家になることだ」と思い、以来政治家を目指してきました。途中で医者になるのかなどと思ったこともありましたが、ずっと政治家を目指してきたことは確かです。

大学生のアルバイトで家庭教師をやりましたが、やがて自分で学習塾を開き、少し経つとすでに生徒数は500名ほどになっており、生徒との強固な絆もできていました。政治家になるよりもこのまま子どもたちのために塾の道を歩む方が人のために尽くすことになるのではないかと、思いに至り、それからひたすら塾道に邁進し、昨年創業40周年を迎えることができました。

創業理念は「心と創造」。企業理念は、常に価値ある教育サービスを提供することを通じて、地域社会の人材育成とそれによる地域社会の発展に永続的に貢献することを目標としています。

「3F」でした。3年前には、キンダーガーデンとアフタースクールをつくりました。キンダーガーデンは、日本で言うアメリカの幼稚園の総称で、アフタースクールは小1〜小4対象の、放課後の学童保育的な機能を果たすものです。ネイティブ7名を含む13名のスタッフで150名弱の子どもたちをオンライングリッシュで指導しています。

11年前に財政破綻した夕張市を支援しています。夏期講習が終わったお盆休みのときに3泊4日の「夕張合宿」を5年前から開催しています。合宿は2日間で31時間勉強するというハードなものです。参加を希望する生徒が多いため、偏差値65以上の200名に限定しています。

北海道の帯広で誕生した練成会ですが、いま総本部は札幌駅から徒歩約5分のところにあります。総本部機能のほか、四谷大塚NET、東進衛星予備校、東進中学NETも入っています。北海道、東北などに26都市で233校舎を展開し、職員は約540名になります。

皆さまにお配りしたお守りがありますが、これは増上寺のお守りです。毎年受験する塾生に合格祈願として配付しています。ご存知のとおり増上寺は東京の芝公園にあり、浄土宗の七大本山のひとつです。また、徳川家の菩提寺としても有名ですが、そこに私どもの創業理念である「心と創造」と刻まれた筆塚を建立しました。

講師に対しては様々な研修は当然実施しておりますが、年に2回無記名で生徒に授業アンケートをとり、今後の授業の改善策に活用しています。

また、野田塾さんが開催している「全国模擬授業大会」に5年前から毎年6

地域貢献と新たな事業展開

名出場させていただいております。そこに出場することがステータスになっていくので希望者も毎回50〜60名と多いのですが、その中から6名に厳選しています。今まで5回出場し、そのうち3回グランドチャンピオンに選ばれました。

私どもの卒業生には東京に出てくる人も多いのですが、人生は山あり谷ありです。辛い思いをしたり挫けそうになったとき、この筆塚を訪れ、練成会の塾で頑張ったときのことを思い出してほしい、そんな思いが込められています。機会があれば訪れてみてください。

北海道日本ハムファイターズのスポンサー企業にもなっております。皆さまにユニフォームをお配りいたしました。私どものネーミングを入れましたが、ユニフォームは毎年20万着以上作り、札幌ドームに観戦に来られる方々にも無料で配布しております。おかげさまで大好評です。

北海道、山形、青森では公立高校の入試が終わったあと、夕方4時頃からテレビの生放送で「入試解答速報」をやっています。5科目の解答解説者と司会者の6名が出演しますが、これもまた出演することがステータスなので、多くの希望者が殺到します。まさしく指導力の登竜門的な場となっていると言えるでしょう。

集団指導に加え、個別指導「3F」を開設したのは2003年です。その前年度からのゆとり教育の中で「円周率はおよそ3で計算しましょう」と文科省が薦めたことに異を唱えるために、円周率は無限であり、「子どもたちの可能性は無限」という意味を重ね合わせて塾名を

す。また、練成会グループとして今年から毎年1000万円ずつ5年間、人材育成と地域活性化の一助として夕張市に奨学金を寄付いたします。

2015年にはベトナムに3校、同時開校しました。ベトナムはあと10年すれば人口は1億を超すでしょうし、いまは教育にとても力を入れています。海外に日本の塾が進出していくことはその国の教育力向上に貢献することにつながります。特に東南アジアに進出することをお勧めします。

「戦国」から「選国」へ、塾がとるべき3つの針路

塾同士が競い合い切磋琢磨してきた戦国の時代は過去の話です。いまや塾は広く浸透し、国や国民から選ばれる陶太の時代が来ています。戦国から選国の時代へと動いているのです。塾の大きな針路としては、次の3つが考えられます。

●M&A
合併や資本提携などにより特長を強

化しながら弱点を補完し、成長発展を目指します。総合的な教育センター（塾の百貨店）としての立ち位置を確立し、地域コミュニティの創造主としての中心的役割を担います。そのためにこそ人材と資本が必要です。特に英語に関しては、人材の強化が急務と言えるでしょう。

●AIの活用

人工知能が進展する中、塾業界でもその活用の可能性は大きく期待できます。いかに有効に活用できるかを考え吟味し、選択を間違えないように、かつ機械的にならないように文字通りAI（愛）をもって取り組むのがポイントと考えます。

●塾文化の輸出
先ほど述べたように、教育の先進国として日本の果たすべき役割はとて大きいと思います。ベトナム開校の成功により、そのことを確信しております。

そして、今当面の課題として取り組まなければならないことを申し上げます。

- ①各塾の特長を活かしながら新規ツールを取り入れる
 - ②ICT教育を有効に活用する
 - ③英語教育のシステムを再構築し強化する
 - ④美しい、通いたくなる、集中できる教室環境を作り上げる
 - ⑤コンプライアンス、女性活用を踏まえた人材の確保に努める。
- 以上、5つの項目について、一つひとつを着実に改善、実現していかなければなりません。継続するもの、直すもの、新しいもの、その選択を見誤らないようにすることが肝要です。

塾業界の発展・信頼も自塾の発展・信頼も相互につながっていますから、私たち個々が品位を保ってお客様（子どもたちや保護者たち）や職員と真摯に向き合っていかなければなりません。私自身、今後も品位と愛情をもってこの塾の本道を歩んでいく所存です。

